

1. 品川区立環境学習交流施設エコルとごしについて

(1) エコルとごしの担う役割

区の環境施策方針を定めた「品川区環境基本計画」において、エコルとごしによる環境情報の発信や環境保全に取り組む人材の育成・活動支援を行うことで、区民および事業者の環境意識の向上と自主的な環境活動の推進に繋げていくこととしている。

共通目標 次世代につながる「日常的に実践する人」を育てる

- 1 環境情報を発信する(各種パンフレットや施設ホームページ等)
- 2 環境学習・体験を推進する(環境学習講座等)
- 3 協働により環境活動を推進する(企業連携事業等)

重点プロジェクト

- 重プロ1 快適な脱炭素型ライフスタイルへの転換プロジェクト(ZEBセミナー等)
- 重プロ2 さまざまな連携による地域全体の脱炭素化の推進(区交流自治体の地域産材の活用等)
- 重プロ3 プラスチックごみ対策・食品ロス削減の推進
- 重プロ4 水とみどりを活かしたつながりづくり
- 重プロ5 次世代を担う人材への学びの機会の充実(体感を重視した展示やイベント等を通じて、環境を楽しみながら学ぶ)

(2) エコルとごしにおける産官学・地域連携

- ◆(株)ローソン、オイシックス・ラ・大地(株)、青稜高等学校との連携による食品ロスイベント
- ◆ソニーグループ(株)との共催企画展の実施
- ◆立正大学、清泉女子大学と連携したSDGs関連講座を実施
- ◆エコルフェスにて青稜中学、高等学校および大崎高校よりボランティア運営実施
- ◆もったいない推進店と連携したパンマルシェ 等

(3) 令和5年度の取組

- ◆講座・イベント
大型イベント2回(春・秋)／環境学習講座60講座／アウトリーチ講座6講座
- ◆企画展
全8回(SDGs関連、企業・防災・歴史・水族館連携等)
- ◆ZEB普及支援
ZEBガイドツアー週1回(一般来館者向け)／セミナー・説明会2回(事業者向け)
- ◆SDGs関係事業
動画「エコルといっしょに考えよう!! SDGs」活用／SDGsをテーマにした講座・イベントの実施

2. 脱炭素社会への取組

(1) 根拠計画(品川区環境基本計画)

品川区環境基本計画の中で、令和32(2050)年度までのゼロカーボン達成、中間目標として令和12(2030)年度までのカーボンハーフ達成を目標として設定している。

(2) カーボンハーフ達成のロードマップ

品川区環境基本計画に掲げる2030年度カーボンハーフ達成のためには、残り10年間で668kt-CO₂の二酸化炭素削減が必要である。家庭、業務、運輸などの各分野で、複合的な対策を実施し、ゼロカーボン達成を目指す。

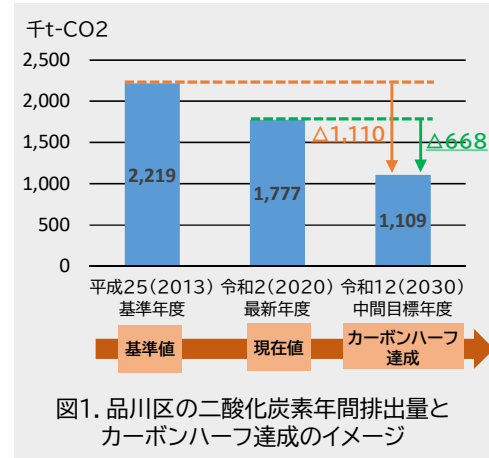


図1. 品川区の二酸化炭素年間排出量とカーボンハーフ達成のイメージ

削減事象	令和12(2030)年度までの削減量 (kt-CO ₂)
脱炭素施策の推進	△410.5
電力の脱炭素化 ※1	△257.5 ※2
合計	△668.0

※1:電力の二酸化炭素排出係数の低減による削減効果
※2:東京電力 エネルギー環境計画書に定める2030年度の排出係数目標を達成した場合の削減量

図2. 令和12(2030)年度までに達成すべき二酸化炭素削減量とその内訳

表1. 主な二酸化炭素発生分析における対策例別の想定削減量

部門	対策例	1単位あたりの削減量[A]	品川区における対象数[B]	達成率【C】	達成時の削減量【A×B×C】
家庭	①住宅の省エネ化(断熱化、太陽光パネル、LED等)	△1.5t-CO ₂ /戸	35,000戸	50%	△26.3kt-CO ₂
	②省エネ行動の徹底(こまめな消灯、室温管理等)	△1.0t-CO ₂ /世帯	233,000世帯		△116.5kt-CO ₂
業務	③事業所の省エネ化(断熱化、太陽光パネル、LED等)	△19.5t-CO ₂ /事業者	20,000事業者		△195.0kt-CO ₂
	④省エネ行動の徹底(こまめな消灯、室温管理等)	△9.0t-CO ₂ /事業者	20,000事業者		△90.0kt-CO ₂
運輸	⑤家庭への次世代自動車の普及	△2.1t-CO ₂ /台	68,000台		△71.4kt-CO ₂
	⑥貨物車両のエコドライブ推進	△0.3t-CO ₂ /台	11,000台		△1.7kt-CO ₂
総計					△500.9kt-CO ₂